Ṣaḍgatikārikāḥ と分別業報略経

岡 野 潔

梵文『六道頌』Ṣaḍgatikārikāḥ (略号 SGK) の Paul Mus 1939 による校訂本は 1 本のネパール写本に依ったものであるが、写本に欠損があったため、彼の梵文には第 1～第 22 偈や第 50 偈が欠けていた。筆者は最近、SGK の帰敬偈以外の全部の梵文を引用した Pāñcālarājavadāna という新たな梵文資料を用いることで、SGK の梵文全部の再校訂を行い、Mus 本の梵文の欠損部分を埋め、梵蔵漢巴 4 言語対照テキストを作成して、発表した (岡野 2018)。

Mus の研究は SGK の 2 本の漢訳である六趣輪廻経 (大正 No. 726; 略号 Ch-1) と佛説六道伽陀経 (No. 725; 略号 Ch-2) を参照している。Mus は漢訳仏典に関しては最低限度の研究 (その 2 漢訳の検討) にとどめたため、2 漢訳以外の漢訳仏典については未調査であった。その漢訳の領域を今回調べたところ、SGK と密接な関係があり内容がよく似ている作品として、大勇菩薩撰・僧伽跋摩訳の分別業報略経 (No. 723; 略号 Ch-3) と安世高訳の分別善惡所起経 (No. 729) があることがわかった。分別善惡所起経は、前半の散文の部分は明らかに偽経であるが、しかし真経である後半の韻文の部分は、Ch-3 と同一の梵語原典からの (しかも Ch-3 より古い) 漢訳と見なしうる。その Ch-3 の異訳と見なすことが出来る、後半の韻文の部分のみを、私は一つの作品として扱う (略号 Ch-4)。また大智度論の中には SGK にかなり近いテキストを利用した箇所があることが判明した。大智度論の執筆に利用された SGK は、現存する梵文 SGK とよく合うが、系統的には有部系の伝承たる Ch-3 と Ch-4 に近い。その詳細は岡野 2018 の 26 頁以下に記した。

さて Ch-3 と Ch-4 はどちらも SGK に似た作品であるが、では両経は SGK と、どの程度に内容が似ており、どの程度違っているのだろうか？ その点に具体的に踏み込む必要がある。そこで本論文では、SGK・Ch-3・Ch-4 という三角形の関係において、特に SGK と Ch-3 の二者の関係に焦点をあてて考察を行いたい。なぜかという、Ch-3 と Ch-4 の関係はかなり単純であって、両漢訳はほぼ同じ梵

語の作品が別の時代に翻訳されて生じたものと見てよい。両者の差異は岡野2018のAppendixの表に示した通りである。もしSGKとCh-3の間の違いを把握すれば、その観察は、若干の違いはあっても大体はSGKとCh-4との相違としても適用出来る。そこでSGKとCh-3の二者に焦点をあて、作品全体の構造や、韻文の同異・順序を示すため、筆者は以下に示す表を作成した。表はSGKを(A)～(H)のパートに分け、またCh-3を(a)～(j)のパートに分ける。その上でSGKとCh-3の二者を、対応し合うパートごとに比較して、違いを記述する。左の列は、SGKの各パートの梗概を太字で示しつつ、各偈の内容も簡単に記す。括弧で括った1～105の数字はSGKの偈番号である。また右の列は、Ch-3の各パートの梗概を太字で示し、SGKとの違いを記す。

SGK	分別業報略経 (Ch-3)
<p>(A) 本作品 SGK を作る意図は、仏が説かれた経に随順し、業報分別を簡略に説くことである。第2～4偈</p> <p>(1) 帰敬頌。仏に帰命することを述べる。 (2) 善・不善の、身口意の業によって果がある。業果に他の作者は存在しない。(3) 仏は業因と果の繋がりの詳細を説かれた。(4) その仏の教えを私は要約して語ろう。</p> <p>(注意: Ch-3の漢文で、韻文の一つの意味のまとまりが四句や八句で訳されている場合、それを私は「1詩節」という単位で数えることにした。八句の場合、梵語の原文が各 pāda の音数が多い、長い韻律の種類で作られた詩節だったのか、それとも anuṣṭubh の2偈の連続によって1文を作ったのかは判断できない。)</p>	<p>(a) 本作品 Ch-3 を作る意図は、仏が説かれた経に随順し、業報分別を簡略に説くことである。仏の教えの基本的な立場を確認し、また主宰神・無因・本性・時などを輪廻界の因として認めない異教徒の立場を確認する。大正17巻446b26-c18</p> <p>Ch-3はこの(a)のパートで9詩節をもつが、SGKと内容的に対応するのは4詩節である。つまり(a)でのCh-3とSGKとの詩節対応率は44.4%である。この(a)におけるSGKと対応する詩節の配置状況を、SGKの偈の数字で示すなら、次のとおり: 1, ??, ??, ??, ??, 3, 4, 2, ??, ??.</p> <p>(注意: 途中にある??の記号は、SGKに対応しない1偈が存在することを示す。以下同様。)</p>
<p>Ch-3の、天使経の文を用いた導入部である(b)パートに相当するSGKの偈は無い。</p>	<p>(b) 『天使経』を踏まえた文により地獄の説明へと導入する。446c19-28</p> <p>この(b)のパートで、Ch-3は5詩節をもつが、SGKと対応する詩節は皆無である。つまり両者の詩節対応率は0%。</p>

<p>(B) 八大地獄のそれぞれに生まれる因となった前世の業を説く。第5～20偈</p> <p>(5) 等活 saṃjīva 地獄の業因と苦果。(6) 等活地獄の名のいわれ。(7) 黒繩 kālasūtra 地獄の業因と苦果。(8) 黒繩地獄の名のいわれ。(9) 炎熱 tapana 地獄の業因と苦果。(10) 炎熱地獄の名のいわれ。(11) 極炎熱 pratāpana 地獄の業因と苦果。(12) 極炎熱地獄の名のいわれ。(13) 衆合 saṃghāta 地獄の業因と苦果。(14) 衆合地獄の名のいわれ。(15) 叫喚 raurava 地獄の業因と苦果。(16) 叫喚地獄の名のいわれ。(17) 大叫喚 mahāraurava 地獄の業因と苦果。(18) 大叫喚地獄の名のいわれ。(19) 無間 avīci 地獄の業因と苦果。(20) 無間地獄の名のいわれ。20で八大地獄終わる。</p>	<p>(c) 八大地獄のそれぞれに生まれる因となった前世の業を説く。446c29-447b5</p> <p>Ch-3はこの(c)のパートで17詩節をもつが、SGKと対応するのは7詩節しかない。ただしそれらは形式的に対応しているだけで、詩節の中身はSGKの偈とあまり似ていない。出てくる順序も一致しない。ここでのCh-3とSGKとの詩節対応率は41.1%である¹⁾。(c)におけるCh-3の詩節の配置状況を、SGKの偈の数字で示すなら、次のとおり：??, ??, ??, ??, 6, 7, 13, ??, ??, ??, ??, 15, 17, ??, 19, 9, 11。</p> <p>(注意：SGKの偈番号を意味する数字の中で、7の如く、太字の箇所はCh-3の詩節内容がSGKと酷似することを示す。逆にいえば、太字でない数字は酷似しない詩節。以下同様。)</p>
<p>(C) 増地獄のそれぞれに生まれる因となった前世の業を説く。第21～37偈</p> <p>(21) 刀の爪をもつ者に生まれる業。(22) 刀の爪という名の説明。(23) シャールマリ鉄刺林。(24) 大女に食われる。(25) 犬や鳥たちに食われ、劍葉林で切られる。(26) 熱い鉄丸・溶銅。(27) 鉄の牙の犬たちに襲われる。(28) ヴァイタラニー河。(29) 車輪に切り裂かれる。(30) 機械仕掛けの山のハンマーに潰される。(31) 剃刀の道を歩む。(32) 羊の形の山に潰される。(33) 熱灰で焙られる。(34) 糞の泥で虫に食われる。(35) 鉄の杵で搗かれる。(36) 地獄の獄卒たる羅刹に生まれる。(37) 苦をもたらず悪業はわずかでも捨離すべきである。37で『地獄の節』終わる。</p>	<p>(d) 増地獄のそれぞれに生まれる因となった前世の業を説く。447b6-27</p> <p>Ch-3のこの(d)パートは11詩節から成るが、そのうちSGKと内容的に対応するのは9詩節である。つまりこの(d)ではCh-3とSGKとの詩節対応率は81.8%である。(d)でのCh-3の詩節の配置状況を、SGKの偈番号を用いて示せば、次の順序になる：33, 34, ??, 25, 31, 24, 23, 28, 26, ??, 36。</p> <p>この(d)パートは全体的に偈の順番があまりSGKと合っていないが、両作品の韻文の内容は酷似しているものが多い。</p>

<p>(D) 畜生の様々な種類に生まれる因となった前世の業を説く。第38～44偈</p> <p>(38) ハンサ鳥や鳩など、また虫などに生まれる業因。(39) 蛇に、ライオンに、また驢馬や犬などの業因。(40) 猿猴に、鴉に生まれる業因。(41) 牛や馬などに、また蜘蛛や蠍に生まれる業因。(42) 虎・猫・ジャッカル・熊・鷲・狼などの業因。(43) 龍・金翅鳥の業因。(44) 決して畜生に生まれる業を作ってはならない。44で『畜生の節』終わる。</p>	<p>(e) 畜生の様々な種類に生まれる因となった前世の業を説く。447b28-c21</p> <p>Ch-3の(e)部分は8詩節から成るが、そのうちSGKと内容的に対応するのは7詩節である。つまりここではCh-3とSGKとの詩節対応率は87.5%である。この(e)でのCh-3の詩節配置状況は、SGKの偈番号を用いていえば、次の順序になる：??, 44, 38, 41, 39, 40, 42, 43。Ch-3の(e)の詩節の中身はSGKと酷似している。</p>
<p>(E) 餓鬼の様々な種類に生まれる因となった前世の業を説く。第45～60偈</p> <p>この(E)を(E1)(E2)に分けたい。</p> <p>(E1) 本来的な餓鬼類のグループの説明。第45～52偈</p> <p>(45) 死体を食べるカタプータナ餓鬼の業因。(46) 子宮の排泄物を食べるカタプータナの業因。(47) 喉に大きな腫瘤をもつ餓鬼の業因。(48) 大きな腹と針の口をもつ餓鬼の業因。(49) 祖霊祭のお供えを食べる餓鬼の業因。(50) 糞・痰・吐瀉物を食べる餓鬼の業因。(51) 焰の口をもつ餓鬼の業因。(52) 蛆虫や虫や蛾を食べる、火と燃える餓鬼の業因。</p>	<p>(f) 餓鬼の様々な種類に生まれる因となった前世の業を説く。447c21-448b6</p> <p>この(f)を(f1)(f2)に分けたい。</p> <p>(f1) 本来的な餓鬼類のグループの説明。447c21-448a17</p> <p>Ch-3の(f1)部分は11詩節から成るが、そのうちSGKと内容が相応するのは8詩節。つまりこの(f1)ではCh-3とSGKとの詩節対応率は72.7%である。この(f1)でのCh-3の詩節配置の状況は、SGKの偈番号を用いていえば、次の順序になる：45, 46, 47, 50, ??, ??, ??, 51, 52, 48, 49。この(f1)は全体的にSGKに似ている。</p>
<p>(E2) 妖怪的な存在のグループの説明。第53～59偈</p> <p>(53) クンバーンダに生まれる業因。(54) ラークシャサ(羅刹)の業因。(55) ガンダルヴァの業因。(56) ビシャーチャの業因。(57) プータの業因。(58) スラー酒を好むヤクシャの業因。(59) 天宮で飛行するヤクシャの業因。(60) 一般的な餓鬼になる業因と、妖怪的な存在になる業因たる、悪業を避けるべきである。60で『餓鬼の節』終わる。</p>	<p>(f2) 妖怪的な存在のグループの説明。448a17-b6</p> <p>Ch-3のこの(f2)部分は8詩節から成るが、そのうちSGKと内容が相応するのは7詩節。つまりこの(f2)ではCh-3とSGKとの詩節対応率は88.8%である。この(f2)での詩節の配置は、SGKの偈番号を用いていえば、次の順序になる：53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, ??。この(f2)パートも、全体的にSGKによく類似している。</p>

<p>(F) 人間に生まれて幸・不幸の様々な状態になる前世の業を説く。第61～93偈 Ch-3は(g 0)のパートで2詩節をもつが、SGKにはそれに相当するパートも偈もない。つまりCh-3の(g 0)でのSGKとの対応率は0%。</p>	<p>(g) 人間に生まれて幸・不幸の様々な状態になった前世の業を説く。448b6-450a15 (g 0) 導入、以下に善趣(天・人)の業因と果報を説くことを告げる。448b6-10 ここは2詩節ある。</p>
<p>(F 1) 人界で短命と病氣を得る因となる業を説く。第61～62偈 (61) 殺生・不殺生という業因による、寿命の長さ・長さという果。 (62) 生き物の殺害・束縛・打擲という業因による、病氣という果。</p>	<p>(g 1) 人界で短命と病氣を得る因となる業を説明。448b10-16 Ch-3のこの(g 1)パートは3詩節から成るが、そのうちSGKと内容が相応するのは2詩節である。(g 1)のSGKとの詩節対応率は66.6%。また(g 1)での詩節配置の状況は、61, ??, 62となる。</p>
<p>(F 2) 貧富の状態をもたらず、盗みと施与の業因を四句分別する。第63～66偈 (63) 〈盗む+与えない〉の業果。 (64) 〈盗む+与える〉の業果。 (65) 〈盗まない+与えない〉の業果。 (66) 〈盗まない+与える〉の業果。 SGKもCh-3も、同じ四句分別から成る。</p>	<p>(g 2) 貧富の状態をもたらず盗みと施与の業因を四句分別する。448b16-24 この(g 2)のパートでCh-3は4詩節をもつが、全4詩節がSGKに内容が相当する。つまりここでのCh-3とSGKとの対応率は100%。Ch-3の詩節状況も全くSGKと同じ順序である：63, 64, 65, 66。</p>
<p>Ch-3の(g 3)パートに相当するSGKのパートや偈はないので、両者の対応率は0%である。</p>	<p>(g 3) 齋戒および親・祖先への供養によりどんな果を得るかを説明する。448b24-c1 この(g 3)でCh-3は2詩節をもつが、SGKに相当する偈はない。</p>
<p>(F 3) 具体的にどんな物を布施すると人界でどんな果を得るかを説明する。第67～77偈 (67) 食物の布施による果。(68) 衣の布施。 (69) 住居の布施。(70) 履き物や橋などの布施。 (71) 水飲み場や井戸や池などの布施。 (72) 園林の布施。(73) 学問の教授・反復読誦・薬施・安全の施与。(74) 灯明・音楽・座臥具の布施。(75) 牛乳の布施。(76) 女子の布施・地所の布施。(77) なんでも願うものを求める人に与えるべきである。</p>	<p>(g 4) 具体的にどんな物を布施すると人界でどんな果を得るかを説明する。448c1-22 Ch-3のこの(g 4)は8詩節をもつが、そのうちSGKに内容が相当するのは7詩節。つまりここでのCh-3とSGKとの対応率は87.5%である。この(g 4)でのCh-3の詩節配置状況は、SGKの偈番号を用いていえば、次の順序になる：67, 68, 69, 71, 70, 72, 73, ??。</p>

<p>(F4) 布施する人の心構えや布施の仕方によって果が異なることを説明する。第78～82偈</p> <p>(78) 染汚された果を得る布施はどのようなものか。(79) 染汚されない果を得る布施はどのようなものか。(80) 正しく布施すれば、同じ仕方でも自分にも与えられる。(81) 正しく、布施の行為を汚さずに布施すべき。(82) そうでなければ相応しい果はない。布施は幸福の原因である。</p>	<p>(g5) 布施する人の心構えや布施の仕方によって果が異なることを説明する。施の業報に関する特殊なルール、業の様々な働き方の説明。448c23-449a25</p> <p>この(g5)のパートで、Ch-3は15詩節をもつが、SGKと内容的に対応するのは2詩節しかない。つまりこの(g5)ではSGKとの対応率はわずか13.3%。未対応の詩節が多い。この(g5)の詩節配置の状況は：78, ??, ??, ??, ??, ??, ??, ??, ??, ??, ??, 80, ??, ??.</p>
<p>(F5) 戒論として、種々の善行と悪行はいかなる業果を得るかを説明する。第83～93偈</p> <p>(83) 不邪淫による果。(84) 女に生まれる悪い業因。(85) 女から男に生まれる業因。(86) 性的な禁欲行(梵行)の果。(87) 不飲酒の果と、不妄語の果。(88) 不両舌による果。(89) 師の教命を実行しつつ、人に益を教える行為の果。(90) 軽蔑と恭敬、また人に楽・苦を与えることの果。(91) 僂僕や小人になる業因。(92) 愚鈍に、また唾に、また聾になる業因。(93) 苦果・楽果・混じった果がある。93で『人間の節』終わる。</p>	<p>(g6) 戒論として、種々の善行(ほぼ十善業道と重なる善行)の業果を説明する。449a26-b25</p> <p>Ch-3はこの(g6)のパートで11詩節をもつが、SGKと内容的に対応するのは5詩節。つまりこの(g6)では、Ch-3とSGKとの対応率は45.4%である。この(g6)における詩節配置の状況を、SGKの偈の数字で示すと、次のようになる：83, 86, 87, 88, ??, ??, ??, ??, 89, ??, ??。Ch-3はこの(g6)において、不邪淫・不飲酒・不妄語・不両舌・不悪口・不綺語・不食欲・不瞋恚・不邪見の善行の各業果を説く。</p>
<p>Ch-3の(g7)パートに相当するSGKのパートや偈はない。つまり両作品のこの(g7)での対応率は0%である。</p>	<p>(g7) 白黒混じった業では果が時間的にどう現れて来るのかを説明する。449b26-c4</p> <p>この(g7)でCh-3は4詩節をもつが、SGKに相当する偈はない。</p>
<p>SGKの上記の(F5)パートに記したSGKの偈のうち、90, 91, 92, 84の四つの偈はCh-3のこの(g8)パートの中に相当文が見つかる。</p> <p>Ch-3の(g6)パートと(g8)パートは元来は一つのパートであり、SGKの(F5)パートに相当するものであったが、後の時代に大きく増広されるに従い、SGKの(F5)パートにまとまっていた諸偈が、Ch-3では(g7)を間に挟んで、(g6)(g8)の2パートに分かれたと推測される。</p>	<p>(g8) 更に種々の悪行と善行はどんな業果を得るかを細かく説明する。449c05-450a15</p> <p>この(g8)で、Ch-3は15詩節をもつが、SGKと内容的に対応するのは4詩節しかない。つまりここでのCh-3とSGKとの対応率は26.6%である。この(g8)におけるCh-3の詩節の配置状況を、SGKの偈の数字で示すと、次の如くである：??, ??, 90, 91, 92, ??, ??, 84, ??, ??, ??, ??, ??, ??, ??.</p>

<p>(G) 阿修羅と六欲天のそれぞれに生まれるための善業を説く。第94～100偈 (94) 阿修羅王になる業因。(95) 四天王になる業因。(96) 三十三天に生まれる業因。 (97) ヤーマ天。(98) 兜率天。 (99) 化樂天。(100) 他化自在天。 SGKは六道説に立ち、94の一偈のみを『阿修羅の節』とする。Ch-3は五道説に立ち、阿修羅界を天界に入れ、四天王天の上に置く。</p>	<p>(h) 阿修羅と六欲天のそれぞれに生まれるための善業を説く。450a16–b8 Ch-3はこの(h)のパートで7詩節をもつが、全7詩節ともSGKに内容がよく対応する。つまりここでのCh-3とSGKの対応率は100%である。この(h)でのその詩節配置の状況は: 95, 94, 96, 97, 98, 99, 100。つまりCh-3では阿修羅の詩節の位置だけが違っていただけである。</p>
<p>SGKは天界の説明を六欲天で終えるため、100で天界の説明を終えており、Ch-3の(i)パートに相当するSGKのパートや偈はない。(i)の対応率は0%である。</p>	<p>(i) 六欲天より上の天界に生まれるための善業を説く。450b9–26 この(i)でCh-3は10詩節をもつが、SGKに相当する偈は皆無である。</p>
<p>(H) 結びの語。第101～105偈 (101) 戒・定・慧それぞれの業果。(102) 善業から楽が、悪業から苦が生じる。(103) 老病死と愛別離苦を果として思惟すべし。(104) 離貪し、罪悪を離れよ。次の仏の言葉を聞け。(105) 他者を害せず、益することが福德である。その逆が罪悪である、と仏は説かれた。105で作品が終わり、『神々の節』が終わる。</p>	<p>(j) 結びの語。煩惱によって生死が起るののでそれを捨てよと勧める。450b27–c5 この(j)のパートでCh-3は3詩節をもつが、SGKに相当する偈はない。つまり(j)の両者の対応率は0%。この(j)に相当するSGKの(H)のパートには5偈があるが、それらは独自の終結の言葉である。</p>

上記の表で示したCh-3の(a)～(j)の各パートごとの、詩節量(つまり詩節の数)ならびに「詩節対応率」の数字を以下にまとめると、次のようになる。

- (a) 〈量9〉44.4%, (b) 〈量5〉0%, (c) 〈量17〉41.1%, (d) 〈量11〉81.8%,
 (e) 〈量8〉87.5%, (f1) 〈量11〉72.7%, (f2) 〈量8〉88.8%, (g0) 〈量2〉0%,
 (g1) 〈量2〉66.6%, (g2) 〈量4〉100%, (g3) 〈量2〉0%, (g4) 〈量8〉87.5%,
 (g5) 〈量15〉13.3%, (g6) 〈量11〉45.4%, (g7) 〈量4〉0%,
 (g8) 〈量15〉26.6%, (h) 〈量7〉100%, (i) 〈量10〉0%, (j) 〈量3〉0%。

〈量..〉とあるのが、詩節量の数である。まず詩節量の点から上記の数字データを考察しよう。Ch-3の全パートの詩節量を合計すると152になる。詩節量が多いパートほど、Ch-3の作者にとって力を入れた、重要な箇所である。(g0)～(g8)のパートが人界の業を扱っているが、それら全部の詩節量は63あり、Ch-3が人

界の業を最も重視していることがわかる。また (c) 八大地獄と (d) 増地獄の両パートの地獄界の合計の詩節量は28ある。(f1) と (f2) は餓鬼界であって両パートの合計詩節量は19である。(h) と (i) は天界であって両パートの合計の詩節量は17である。(e) が畜生界で、詩節量は8である。Ch-3では、人界>地獄界>餓鬼界>天界>畜生界の順で、扱う詩節の数が減るので、この順で作者の関心が減少するといえる。SGK では人界が計33偈、地獄界も計33偈で、両世界の扱いが等しい。SGK より Ch-3のほうが人界で働く業に強い関心を示す。それは Ch-3にみられる、SGK よりも詩節を増広させた時の再編集方針の一つが、人界の業の説明の強化にあったためであろう。

次に Ch-3 と SGK の「詩節対応率」の数値からデータを考察する。Ch-3の各パートで、両者対応率の%の数値が高いことは、そのパートが SGK と共有する韻文 (SGK と類似する韻文) を有する率が高いことを意味する。それを見ると、対応率が高いパートは (d), (e), (f1), (f2), (g1), (g2), (g4), (h) の八つのパートである。すなわち (d) 増地獄, (e) 畜生界, (f1) (f2) 餓鬼界, (g1) (g2) (g4) 人界の業の前半部分, (h) 六欲天である。両作品が類似した韻文を共有している割合が高いそれらのパートは、SGK と Ch-3 という二つの recensions が形成される前に存在した、SGK の原形 (Ur-SGK) を色濃く残している部分、すなわち Ch-3 が増広される前からあった、SGK と共有する作品の中核部をよく残しているパートであると考えられる。他方、両者の対応率が低いパートは、(b) 天使経による導入部, (g5) ~ (g8) 人界の業の後半部分, (i) 色界天・無色界天である。それらのパートは有部における Ur-SGK から Ch-3へ拡大する再編集において詩節の増広が多くなされた箇所であると私は思う。また (c) が奇妙にも対応率が低いのは、Ch-3の再編集において本来 SGK に近かった (c) の多くの八大地獄の韻文を別の聖典の偈によって差し替えたからではないか¹⁾。

もし Ch-3の原本の編集者が、SGK に近い形の原テキストとしての Ur-SGK を拡充しようとする場合²⁾、彼はどのように作業するだろうか? 古い作品がもつ全体の構造を変えることは避け、古い作品の中央部分よりも、その前後 (作品の初めと終わり近く) に集中的に増広を行うのが、自然であろう。特に人界の章で、人間の業の説明の詳細化が望ましい。全体的にその方針で編集がなされた結果、有部で Ch-3の原本が、SGK よりも一回り大きな別のテキストとして成立したと考えられる。

- 1) Ch-3の八大地獄の詩節が、例外はあるものの、全体的にSGKの偈と似ていないのは、或る時期に有部の別の聖典にある八大地獄の詩節によって差し替えられたという事情があるのではないか。これについては岡野2018, 51頁と65頁と149頁を参照。
- 2) 筆者は現時点で次の仮説をもっている：「本来有部で作られたテキスト（Ur-SGK）が出来た後、その作品の主要部分はある期間、上座部系の諸部派で共有されていた。そしてUr-SGKからそれぞれ有部のrecension（Ch-3とCh-4の原本）と正量部のrecension（現在の梵文SGK）のテキストが成立した」（岡野2018, 36）。

〈参考文献〉

Mus, Paul. 1939. *La Lumière sur les Six Voies*. Paris: Institut d'Ethnologie, 1939.

岡野潔2018「六道頌（Ṣaḍḡatikārikāḥ）の研究——梵蔵漢巴対照テキスト——」『南アジア古典学』13: 1-164.

牧田諦亮（1976）2014『疑経研究』牧田諦亮著作集第1巻，臨川書店。

〈キーワード〉 六趣輪廻経，佛説六道伽陀経，分別業報略経，分別善惡所起経

（九州大学教授，Ph.D.）

新刊紹介

山崎守一 著

古代インド沙門の研究
最古層韻文文献の解説

A5版・752頁・本体価格18,000円
大蔵出版・2018年6月